

8.17 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

12:40	遠野駅着
13:00~14:00	引継ぎ開始
16:30~18:30	夕食準備開始
19:00	夕食
20:20~21:40	ミーティング
22:30	スタッフミーティング

2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
 - 自分の友人の親が津波の被害にあった。
 - 自分も帰宅困難者の経験をしたことから。
- なぜ今の時期なのか
 - 震災直後は、自分のやるべきことがあったり自分自身の準備が整ってなかったから。
- なにがしたいのか？
 - 去年、大船渡を訪れた経験があり、震災後の現状を自分の目で確かめたかったから。
 - 人の役に立ちたい。
- 学術支援について
 - いい勉強につなげる手伝いをする
 - 心のつながりを意識したメンタルケア
 - 女の子には女の子、男の子には男の子のサポーター
 - 活動意義をスタッフ間で統一させておくことが大事！！

8.18 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

5:30 食事班起床

6:00 朝食準備開始

7:00 朝食

8:15 出発

視察

9:30～10:10 陸前高田視察

10:30～11:50 大船渡市視察

12:45～13:15 昼食

① グループ（学習支援組3人）

13:00～16:00 大船渡中学校にて学習指導（生徒：男子2名、女子4名 計6名）

② グループ（ベンチマップ作り5人）

13:00～15:30 ベンチマップ作り、仮設住宅研究

17:30 夕食準備開始

19:30 夕食

20:05～20:30 スタッフミーティング開始

20:30～21:45 ミーティング

2. 1日の活動

- ・学術指導(3人)

中学生に勉強を教える

- ・マップ作り(5人)

仮設住宅のベンチマップを作りました。

3. 視察の感想

Q、陸前高田と大船渡の被害状況の違いは？

- ・陸前高田は平地で大船渡は高台の多い町だから壊滅的な状況と部分的に壊滅的な状況に分かれていた。

- ・陸前高田は7割ほど津波の被害に会い、大船渡は1割ほどが津波の被害に会った。

- ・7万本あった高田松原の木は1本だけ残った。

Q、これからの復興計画は？

- ・陸前高田は台風シーズンまでに防波堤を作ろうとしている。

- ・大船渡は被害のあった場所には作らないようにしている。

＝津波の被害にあったという点では、2つの都市は同じであるが、被害の状況も違うし、被災者の状況も違うから、これからの復興の仕方も変わってくる。

＝大船渡の状況が全ての被災地の状況に当てはまるわけではない。

4. 学術指導（3人）

場所：大船渡中学校

時間：9:00～12:00,13:00～16:00

生徒数：計6人

感想

- ・先生たちより歳が近いから生徒にとって分かりやすい指導ができたと思う。
- ・苦手分野を把握して、その分野について重点的には教えられた。
- ・今日1日の指導を終えて、何かをしてあげられたのかが分からない。

ベンチ配置図作り

方法：手書きで書いてあったマップを excel と power point でデジタル化。

内容：いままで仮設住宅で作ったベンチの配置図とベンチの種類を視覚化。

5. 明日の予定

午前中に学術指導、末崎でベンチ作り。

8.19 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

5:30 朝食班起床

6:00 朝食準備開始

7:10 朝食

8:15 出発

① ベンチ作り班（6人）

9:30 地ノ森仮設住宅視察

10:00 社会福祉協議会にてベンチ作り

11:30 末崎にてベンチ塗り

12:30 お昼

② 学術指導(3人)

9:00 スタート

12:00 終了

12:15 ベンチチームに合流

12:30 お昼

13:30 碁石に出発

14:00 碁石到着後 ベンチ作りとペンキ塗りスタート

15:15 作業終了

15:30 穴通磯観光

16:00 穴通磯出発

17:00～17:50 お買い物

18:00 夕飯準備開始

19:00 夕食

20:00～21:30 ミーティング

1. 1日の活動

- 午前中：社協でベンチ作り（6人）、地ノ森仮設住宅視察
大船渡中学で学習指導（3人）
・生徒数：12人

- ・形式；教室で自習をしている生徒が質問してきた時に指導する。50分ごとに10分の休憩を導入

- ・感想：少しずつ生徒数が増えてきて、休憩もとりにれたことにより雰囲気もよくなっている。

- ：スタッフ3人を分担制（個別的に見る人、全体を見る人、コミュニケーションを重視してやる人）に分けてやったところ良かった。

- 午後：碁石（大豆沢仮設住宅）でベンチ作り、ペンキ塗り

- 大豆沢仮設住宅

- ・建設時期：7月中旬に完成

- ・戸数：20戸

- ・建物：他の仮設住宅と比べて外壁や玄関がアパート同じような形でしっかりとしている

- ・住民：高齢の方が多い。男性も多い。元々漁師だった人が集まってきた。

- ・自治会：有

- ・感想：コミュニティが既に出来ている。もらい慣れしている感じがある。

- ベンチ作業

- 数：ベンチ2つ完成

- 色塗り：ベンチ2つとテーブル1つに塗った

- 内容：10数人の住民の方と一緒に作業が出来た。住民の方からアイスなどの差し入れも頂いた

明日の予定

社協でのボランティア（泥出し、写真洗浄）

8.20 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

- 5:30 食事準備
- 7:00 食事
- 8:15 出発
- 9:30 社協到着
- 10:30 末崎到着 側溝泥出し開始
- 11:45 泥出し終了 社協へ戻ってお昼ごはん
- 13:15 末崎再び到着 側溝泥だし再開
- 14:30 泥だし終了
- 15:00～17:00 帰宅
- 19:10 ご飯

2. 1日の活動

- 社会福祉協議会での側溝泥出し作業

作業時間：35分ごとで休憩15分

場所：末崎の漁港近く

人数：午前中→40～50人、午後→20人程

- 感想

- 社会人が多く若い人がもっと来てほしいと感じた。
- 自分たちが東京に戻ってからできることは何かをもっと考えて行動していきたいと思う。
- 側溝泥だしが今被災者の方のニーズに沿った活動なのかどうか疑問に感じた。

- 大船渡社会福祉協議会

スタッフ数：5人程度

他のスタッフ：他の地域から応援で数十人来ている

仕事内容：ボランティアで来た人をどこにどう配置するかを指示している

- 遠野社会福祉協議会

スタッフ数：数十名

仕事内容：人数も多く上手く機能しているから、他の地域にまで活動を伸ばしている。

ボランティア活動の企画、指示。Ex,お茶会など

3. 明日の予定

教会での礼拝、地ノ森でベンチ作り、塗り

8.21 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

6:30 食事準備
8:00 食事
9:50 教会組み出発
10:30 出発
12:00 お昼
13:15 地ノ森仮設住宅到着
14:00～15:30 「こびるの会」開始
16:00～17:15 帰宅
19:00 夕食
19:50 MT

2. 1日の活動

- こんこん活動

午前中チラシの作成をして、60部コピーした。3人1組でお宅を回ってチラシを配りながら「こびるの会」の宣伝活動を行った。

- 「こびるの会」

お菓子（どら焼き、その他お菓子）と飲み物を準備した。14時から開始し延べ17名（うち子ども7名）が参加してくれた。皆さんお茶やお菓子を楽しみながらおしゃべりしたり遊んだりしていた。なかでも折り紙はお年を召された方がたにも人気で、おしゃべりしながらできてしかも頭と手先を使うからいいわよねという感じで好評だった。子どもたちはカードゲームをしたり集会所にあった本を読んだり、学生と一緒に遊んだりしていた。

1. 感想・意見等

- こんこん活動中に多くの人から「いつもありがとね」や「お祭り楽しかったよ」「ベンチ助かってるよ」等の感謝のコメントを頂いた。
- 参加者の多くが女性だったことやお茶会という名目を使用したことなどによって男性が参加しにくい雰囲気を出してしまったのではないかと。
- 地域コミュニティーを作るというよりも、知り合い同士がずっと楽しく話している雰囲気もあった。

→席の座り方に配慮する

→机の並べ方をもう少し考える必要がある。（今日は2つの島ができてしまった）

- 私たち学生がうまくばらけてローテーションしていろいろな人とコミュニケーションがとれていたのがよかった。
- こちらが興味を持って、積極的に関わっていくコミュニケーションが必要
- 人と交流する時にまず自分から名前を名乗ってから相手の名前を聞くのが真摯じゃないだろうか

明日の予定

基石でベンチ作り、塗り

8.22 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

- 7:00 食事準備開始
- 8:30 朝食
- 9:45 出発
- 10:30～11:00 YSセンターにて意識調査のミーティング
- 11:00頃 長洞仮設住宅に到着
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～14:30 長洞仮設住宅にて意識調査
- 14:30 出発
- 15:00～15:40 買い物
- 16:00 帰宅
- 19:00 夕食
- 20:00 MT開始
- 21:30 終了

2. 1日の活動

- 長洞仮設住宅にて意識調査。

- 1、部屋番号を聞く
- 2、ベンチの有無があるかどうか
- 3、ベンチの使用があるかどうか
- 4、利用している状況
- 5、コミュニティー(自治会)があつたらいいと思っていますか
- 6、ご近所の人を知っているかとか

3、まとめ

自治会の形成について様々な意見があることがわかりました。若い年齢の方は、自治会が必要ないという意見の方が多かった印象があります。高齢の方に関しては、自治会は必要であると答えた方が多かったようです。私たちのミーティングでは、自治会が形成されれば、秩序が生まれることはもちろんですが、外部からの助けではなく内部からの力、つまり自らの力で人と人とのつながりが形成されていくのではないかという結論にいたりしました。

Q、震災の時のつらい話しなどをされた時にどう反応すればいいか？

- ・なるべく明るい話しにするようにする
- ・ただ頷いたり、同意したりするようにする
- ・被災者でもない自分たちがポジティブな反応を返してもそれをマイナスに捉えてしまう人がいるのではないか。だから、頷くことしかできない。

=どちらの反応が良いのか、悪いのかは言えない。それぞれのやり方に任せるしかない。

8.23 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

7:00 朝食
8:15 YS センターへ出発
9:30 YS センターにてベンチ調査のまとめ作業
11:30 長洞仮設住宅に出発
12:30 休憩終了
12:30～14:00 こびるの会準備
14:00～15:30 こびるの会
15:30～16:00 片付け
17:30 買い物終了
18:00～19:00 食事準備
19:00～19:50 食事
20:15～22:00 ミーティング

2. 1日の活動

- 「こびるの会」

地ノ森のときと比べて今回の会は人数も多く、話すことに対して積極的な人が多く、自分たちも住民の方々といい意味で普通に対等に接することができた。自分たちも仮設住宅の方々とお話しするのに慣れてきたことも、地ノ森のときとの違いの1つである。社協から来た生活指導員の方々も積極的に動いてくれて大きな力になってくれていたと思う。来場者は子どもは前回よりも少なかったが、大人は集会所の外の方々も含め20人以上で今回は男性の参加者も2人いた。

反省点としては、はじめのうちは住民の方と自分たちが話してしまっていたところが気になった。また男性の方が集会所を覗きに来てくれたが、前回と同じく女性が多いからか入りにくい雰囲気があった。

1. まとめ

一週間を通して、雨が多かったので普段の活動とは違い、ベンチ作りではなく人と人との付き合いを重視する活動が多かった気がします。こびるの会という新しい活動も生まれて、長洞仮設住宅ではコミュニティ作りのお手伝いができたのではないのかなと考えました。このボランティアに参加したことで、私

たちのボランティアに対するイメージも変わり、大船渡市の皆さんの力強さを感じることができました。第6陣の活動は今日で終わってしまいましたが、大船渡市の現状やボランティアを通して学んだことを自分たちの周りの人たちに伝えていきたいと思います。

8.24 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

13:00	遠野駅着
13:00~14:00	引継ぎ開始
14:00~15:15	役割分担（食事当番、掃除当番）
16:00~19:00	夕食準備開始
19:00	夕食
20:20~21:40	ミーティング
22:30	スタッフミーティング

2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
 - 自分の友人の親 が津波の被害にあった。
 - 自分も帰宅困難者の経験をしたことから。
 - 他人事にせず、日本人として日本のために何かしたいと考えたから。
- なぜ今の時期なのか
 - 震災直後は、自分のやるべきことがあったり自分自身の準備が整ってなかったから。
 - 募金や支援物資は学生である自分には微々たる物であり、あるのは時間だったため、ボランティア団体が入れる今の時期に参加した。
- なにがしたいのか？
 - 去年、大船渡を訪れた経験があり、震災後の現状を自分の目で確かめたかったから。
 - 人の役に立ちたい。
 - 現地の人の声が聞きたかったから。
 - 学習支援には自信があったため、学習ボランティアと聞いて参加した。

- 自分が今できることをしたい。